

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190501817), 法人名 (株式会社 風和里), 事業所名 (グループホームふわり藻岩下 1階), 所在地 (札幌市南区藻岩下4丁目2番7号), 自己評価作成日 (平成29年10月18日), 評価結果市町村受理日 (平成29年12月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境に立地しており四季の変化を肌で感じる事が出来る。ふわりとした陽の光が差し込むようなオレンジ色と木のぬくもりを感じる温かさで落ち着いたある広々としたユニット。山村地区で生まれ育った方にとっては懐かしい環境で過ごせることは他所と比較して当ホームが誇れる部分であると考えます。町内の方々とも自然にあいさつを交わし穏やかで健やかに過ごしていただけるライフスタイルがここにはあります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2017\_02\_2\_kihon=true&JigyosyoCd=0190501817-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年12月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

藻岩山スキー場に近い、閑静な住宅地に建つ2階建て2ユニットの事業所で、広い庭には花壇や菜園、多くの樹木があり、小動物が木の実を目当てに庭を訪れる、自然豊かな環境にある。新築の事業所内は随所に工夫が見られ、各居室はリビングから少し離れていることで、静かにゆったりとくつろぐことが出来る。リビングの天井は高く開放感があり、明るく大きな窓からは札幌の街を一望出来、美しい夜景も眺められる。浴室は広く、3方向から介助が出来る浴槽を採用している。緑に囲まれたデッキテラスは、外気浴や日光浴に有効利用している。管理者及び職員は、利用者の尊厳を重視し生活の主体者として、一人ひとりに残された機能を最大限に生かしたケアを実践しており、近隣散策・ドライブ外出・行事等の、準備や参加を支援している。また、身体機能に合わせたレクリエーションや運動を日課とし、事所内でも楽しく過ごせるよう配慮しており、家族の信頼も厚い。近隣住民とは買物や散歩時に気楽に挨拶を交わし、町内会主催の清掃や、ジンギスカン夏まつり等の行事に参加している。静かな環境の中で、四季の移り変わりを身近に楽しむことができる、地域密着型事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域活動への積極的参加を目標に地域に根差せるよう取り組んでいます。理念は常に持ち歩き、念頭に置いて入居者様のお世話をさせていただいています。	運営法人の経営理念・理念理念・基本方針とグループホーム介護理念はパンフレットに明記している。介護理念は各ユニットやスタッフ室に掲示している。全職員は理念の重要性を理解しケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出ると町内の方々との挨拶は欠かさない。公園では児童と会話交流を行っている。ご招待することを検討している。	町内会に加入している。町内の清掃やジンギスカンパーティに参加し交流している。地域の一員として、七夕祭りには提灯行列の子供達用にお菓子を準備していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はまだ行っていないが会場を設定して啓もう活動を行っていく事を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会、地域包括支援センターの方々から新しい情報を頂き行事や入居者、その家族に向けての情報を提供できている。	定期開催している運営推進会議では、利用者家族・町内会役員・地域包括支援センター職員等が出席し、入居者状況・行事予定と報告・職員の状況等を議題とし、事業所の運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組んでいる。区役所保護課ケースワーカーとは連絡を密にいただいた情報と提案により新しいサービスに結び付けている。 例)札幌市おむつサービス	区保護課とは日常的に連絡を取り合い、協力関係を築いている。他に地域包括支援センターなどの関係機関の助言を得て、サービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。玄関の施錠についても侵入者予防という観点から夜間のみ行っている。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかり、利用者の安心と安全の遵守に努めている。夜間以外鍵は掛けず、見守りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員各自が互いにチェックし合って行けるように取り組んでいる。虐待マニュアルを作成し職員は自由に閲覧できるようになっている。また、職員研修で話し合い虐待防止の徹底に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ユニットにはいないが2階では実際に権利擁護センターが関わっている入居者が2名おり当制度と事業の内容を理解して必要に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については契約時またはそれ以外の時であっても入居者またはご家族から疑問が生じた場合、十分に説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時お困り事は確認させて頂きサービスの提供に反映している。苦情については事業所に窓口を設けている。他機関の相談窓口についても重要事項説明書に明記しご説明を行っている。	来所時の会話の中から、希望や要望をくみ取り家族の思いを、運営に反映するようにしている。意見反映の機会を幅広くとらえて、担当窓口や外部相談機関の周知を徹底している。	日々の出来事や外出等の様子が家族に伝わるような『事業所便り』の工夫と、広く意見を伺う意味でも意見箱の設置を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事立案や物品の購入、備品の設置について情報を貰い早期実現に心がけている。毎月実施するカンファレンスでも職員から要望を出していただいている。	全職員参加のケアカンファレンスで、意見や提案を聞く機会がある。人事考課制度を導入し、個々の実績を評価している。また、必要な研修への参加等、スキルアップを促す環境整備を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップのための外部研修の受講について法人で受講料を負担し勤務表を調整し安心して資格取得に取り組むことが出来るように環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の受講については職員に積極的に勧めており受講料も事業所で負担することを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ法人内の同業者との交流はあるが法人外においてはまだまだ消極的である。入居者の受け入れにかかる情報交換は行った事がある。内部研修の講師に他町村の同業者職員を招いたことがある。今後徐々に進めて行きたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から訪問面談を行い利用者の話を傾聴し安心のできる関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のホーム見学時から家族の抱える状況に耳を傾け本人のみならず家族も安心してサービスを受けることが出来る関係づくりに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から利用者の担当ケアマネと連絡を密に行い情報を共有し入居後のサービスに結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームは「家」、入居者と職員は「家族」という気持ちを大切に節度を持ってサービスの提供に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会をお勧めし居室内で安心して静かに交流が図られるように支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から繋がって来た関係が継続出来るように支援している。宗教的な繋がり或いは団地の仲間との繋がりがある。	関係者の理解や協力を得て、家族と共に絵画展・美容室・サッカー観戦に行く等、馴染みの関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操にお誘いしている。一人になることを好む方についてもさり気なく皆の顔が見られるところへ招き孤立状態を作らないように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本年1月に事業が開始してそのようなケースは未だないが今後、退居者が出た場合もアフターケアに努めていく予定である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「家に帰りたい」という思いを持って入居されている方もいる。本人が納得されるまで本人の話を傾聴している。	センター方式のアセスメントを活用し、利用者本位に検討するようにしている。日常の希望や要望は傾聴し、家族からの情報を得て支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、入居に至る経緯については情報収集に努めている。入居前面談の実施。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態、能力の把握に努めている。介護経過記録への情報の集積を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスを通して入居者の置かれている状況を把握し優先度を考慮した支援を行っている。	月に一度のカンファレンスで状況や介護経過を検討し、定例見直しには家族の意向を踏まえた介護計画を作成している。この間、心身の変化には医療機関等との連携の下、個別対応をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな事柄でも介護経過記録に集積し貴重な情報としてケア・プランの立案に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一面的な観かたに捉われず多面的に捉えることで個別援助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かな環境の中で住宅地でない穏やかな気分転換が図られるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療は月2回、24時間間で入居者の方々の身体状況に変化が生じた場合の対応も行っている。他機関の専門医の受診に当たっても相談に応じてくれており適切な医療を受けられるように支援を行っている。	2週に1度の協力病院医師の訪問診療や、週1度の訪問看護師の健康管理があり、医師・看護師とは24時間連絡がつく。また個々の病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度来訪する訪問看護ステーション看護師や協力医療機関の看護師に情報を提供してまた、情報を受けて適切な医療が受けられるように支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。相談員とは日頃から連絡を取り合い入退院についても医師、看護師と決め面談を行い早期退院に向けて取り組んだ実績がある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約の段階で書面にて説明を行い了解を得てサービス提供を行っている。	利用者や家族の意向・要望を基に、協力医療機関との連携体制を含み、指針『重度化した場合における介護(看取り介護)』を文書で確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は入職時から救命救急法の受講を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所については町内会から情報を頂き避難方法についても行ってはいけない対応を理解している。日頃から町内会に協力を仰ぐようにしている。	消防署参加のもと年2回訓練を行っている。地域の人々の協力についても呼びかけている。事業所内には火災受信機、消火器、火災自動通報装置があり、スプリンクラーが設置されている。	火災以外の、台風・地震・雪害などの自然災害に対応できるような防災訓練の実施と、訓練することで見えてくる、倒れる危険のある家具や電気製品の固定等、運営推進会議や職員会議で検討することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別に人格を尊重し尊厳を大切にしている。声掛け、会話など人生の先輩として尊重している。	プライバシーや尊厳に関わる事は、周囲に配慮しながら行ってる。また、個人情報はスタッフ室で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生命維持に関わる重大な決定以外のことについては日常的に自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のライフスタイルを重んじお誘いし、促しはあるが強制は一切行っていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で毎日好きな服を自分で決めて頂いている。決められない方については見て自分で決められるように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付け、食器拭きと手伝っていただいている。	畑で収穫したいいちご・トマト・ししとう等、旬の野菜を食事メニューへ取り入れ、誕生日には好物を提供し、利用者が楽しめる食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量を毎日チェックを行っている。献立は管理栄養士が栄養のバランスを考え毎日野菜を多めのメニューを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを各々に行えるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に自力で排泄できるよう排泄パターンを把握して支援を行っている。	本人の身体的状況や心理的な負担も検討しながらトイレ誘導の方針を職員が話し合い、支援している。自尊心に配慮した声かけとさりげない誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に当たっては乳製品の提供を行うことで良好な便通の確保に心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を優先している。自分で決められない方についてはお伺いさせて頂いている。	浴室は広く3方向から介助が出来る浴槽を採用している。体調や要望を聞き、一人ひとりの習慣に合わせた入浴支援をしている。入浴剤にも配慮し、リラックスして入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も希望に応じて長時間にならない程度に居室での臥床、休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量について理解して支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を折ったりチラシでゴミ箱を作ったり、玄関に飾る花を活着て頂いたり生活歴を活かした役割を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物等に出掛け希望に添えるよう支援している。	心身の活性化につながるよう、一人ひとりの身体の状態に配慮しながら、近隣を散歩している。デッキテラスでの日光浴や外気浴を支援し、野菜の栽培や収穫などで、外に出る機会を提供している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金のお預かりはしていないが行事等で買い物に出る時は支援させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時には対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に環境整備に努め季節を取り入れた絵を描き利用者様と共にその絵を塗り壁に貼ることをしたり心地よい音楽をかけて楽しんでいる。	リビングは天井が高く日当たりが良い。広い窓からは札幌の街が一望でき、季節感のある飾りつけや、利用者の作品等が飾られており、居心地良いアットホームな共有空間になっている。庭には小動物が顔を出し自然が身近に感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	快適に過ごしていただけるように意思を尊重した場所を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室清掃を行った際置いてあるものを元の位置に戻すという配慮をしている。	利用者の居室は、家族とともに危険箇所がないかなどの点検を行い、安全に居心地よく過ごせるよう支援している。室内灯はリモコンで明るさの調節や点灯・消灯が出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時のふらつきを見守ることで危険回避できるよう支援して、出来るだけ自分の足でいつまでも歩行できるよう支援している。		